

ἐπίθεσις χειρῶν

エピテシス ケイローン

知っておきたいキリスト教のことば (11)

按手 あんしゅ

按手とは「手を置く」ということで、キリスト教の中で用いられる用語です。旧約聖書の中にも、手を置く場面は出てきます。例えば民数記 27 章 18 節をみますと、モーセがヌンの子ヨシュアを後継者として任命する際に、頭に手を置く場面が出てきます。

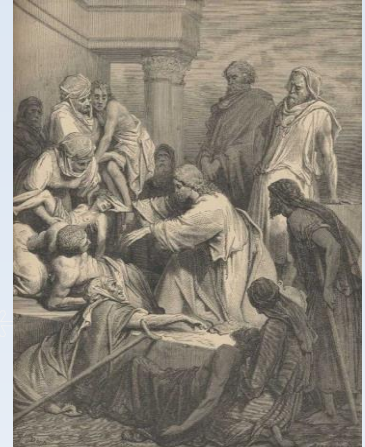
新約聖書の中では、イエス様が病人をいやされる場面に多く見られます。また子どもを祝福する時にも、手を置かれています。この動作は今でも受け継がれており、病気の方に按手をしたり(日本聖公会祈祷書 332 頁)、子どもを祝福する時に頭の上に手を置くのは、イエス様のなされたことに由来しているようです。

また、聖霊を与えるために按手をおこなったことも、聖書には書かれています(使 8:17、19:6)。聖公会でおこなっている堅信式は、すでに洗礼を受けた人が、道理をわきまえることの年齢になったときに手を置く式で、聖霊の特別な恵みを願い求めるものです。

さらに主教・司祭・執事に叙任される聖職按手式においては、手を置くことによって聖霊が注がれることを求めますが、使徒言行録にあるステファノたち七名を選出した時の按手を思い起こさせます。

さて、初代教会から続くこの「按手」という儀式ですが、もともと按手をおこなうのは使徒に限ったことではありませんでした。また、按手をおこなう人の賜物が、按手される人に移るといってもありません。按手によってその人に授けられるのは人間的な能力ではなく、その人にとって必要な力、神さまのご用をおこなうためになくてはならないものです。それを神さまがわたしたちに直接くださるのです。

次回は「安息日」です。お楽しみに。



「イエス、病人をいやす」

ギュスターヴ・ドレ (1832-1888)

そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。

(マタイによる福音書 19 章 13 節)

